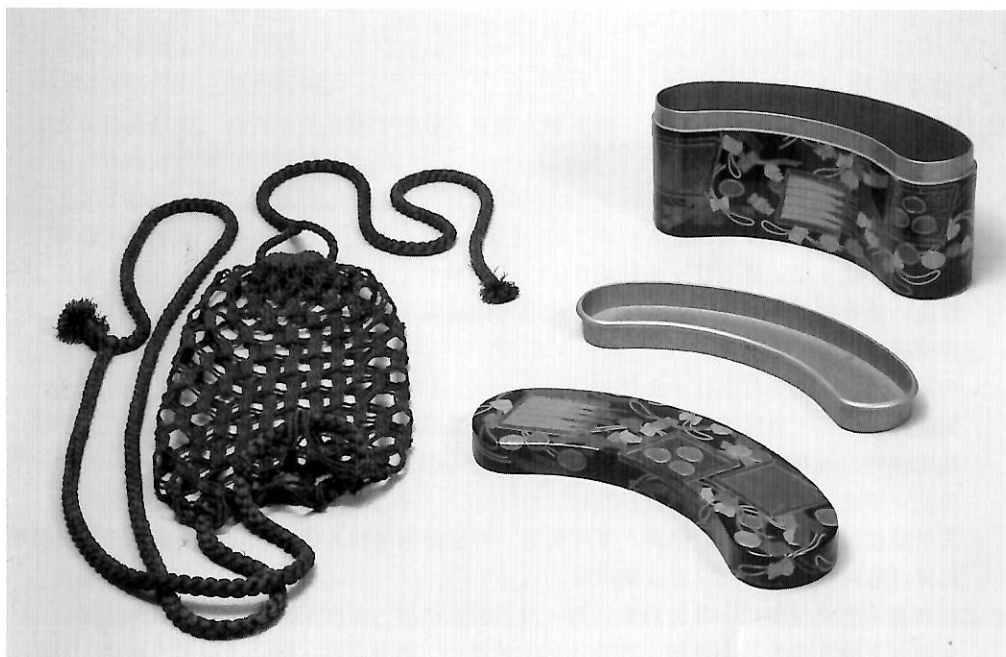




黒漆勝栗金銀蒔絵腰桶（徳川家光所用）

目 次

博物館のあゆみ

平成4年度	2
平成5年度	7
博物館の名品	12

博物館のあゆみ

平成4年度

館内業務

1. 特別展

○特別展「久能山東照宮の名宝」

会期＝平成4年4月1日～6月30日

館蔵の重文日根野形兜・脇指行光・貞宗・和剂局方・蒔絵椀等70余点を展示。

○特別展「徳川将軍の遺品」

会期＝平成4年7月1日～9月30日

館蔵の後水尾天皇宸翰神号、重文太刀雲次、縹絲威具足、腰桶、馬面等70余点を展示。

○徳川家康生誕450年記念特別展「徳川将軍の肖像画と近世の服飾」

会期＝平成4年10月15日～11月23日

徳川歴代将軍の肖像画、甲冑、軍陣装束、神宝装束及び大奥女性の衣裳等約70点を展示。

協賛は静岡鉄道。特別協力は徳川家。

○特別展「徳川将軍の甲冑と刀剣」

会期＝平成5年1月1日～3月31日

館蔵の国宝太刀真恒、重文太刀雲次・齒朶具足・金陀美具足等70余点を展示。

2. 資料の撮影

平成4年4月17日、8月31日～9月2日及び9月11日～12日、(株)大塚巧藝社写真部に依頼し、重文家康遺品の新規撮影を行った。

3. 刀剣の再調査

平成4年6月27日、文化庁文化財鑑査官広井雄一氏に依頼し、当館所蔵の刀剣の再調査を行った。

4. 甲冑の修復

平成4年7月3日～12月4日、鎧司小沢正実氏に依頼し、縹絲威具足（五代将軍綱吉所用）及び金小札紫絲威喉輪（二代将軍秀忠所用）、紫絲威頬当（三代将軍家光所用）、紫紺絲威喉輪（三代将軍家光所用）、色々絲威半頬（四代将軍家綱所用）を修復した。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「秀吉・利家・家康展」

会期・平成4年4月25日～5月24日

会場・石川県立歴史博物館

重文歯朶具足、後水尾天皇宸翰神号、東照大権現像（天海賛写・狩野養信筆）2幅、徳川家康像、徳川家康定書を出品。

○「天下布武・織田信長展」

会期・平成4年4月30日～5月5日

会場・東武船橋店6階イベントプラザ

織田信長黒印状と伝信長・秀吉・清正手判を出品。

○「信長展」

会期・平成4年7月1日～8月2日

会場・石川県穴水町歴史民俗資料館

東照大権現像、織田信長黒印状、織田信雄覚書、伝信長・秀吉・清正手判を出品。

○特別展「家康の遺産」

会期・平成4年10月3日～11月15日

会場・徳川美術館

重文歯朶具足・太刀無銘光世・脇指無銘行光・脇指無銘貞宗・徳川家康関係資料（洋時計・鉛筆・びいどろ壺・蒔絵硯箱・書棚・文机・鞍等）等44件を出品。

○「水野勝成とその時代展」

会期・平成4年10月3日～11月8日

会場・福山市立福山城博物館

重文日根野形兜・火縄銃、東照大権現像2幅、鷲図、徳川秀忠書状・織田信長黒印状、大極旗、茶絲威具足（二代将軍秀忠所用）を出品。

○特別展「家康と東照宮」

会期・平成4年10月9日～11月9日

会場・名古屋城天守閣

重文徳川家康関係資料（口宣案・宣旨・位記・冠・石帯・浅沓）・日根野形兜、貫衆具足、徳川家康像、徳川十六将図、三十六歌仙額等19件を出品。

○「将軍のフォートグラフィー展」

会期・平成4年10月9日～12月6日

会場・松戸市戸定歴史館

徳川慶喜遺品（軍帽・カメラ3台）を出品。

○「佐和山城とその時代展」

会期・平成4年10月17日～11月23日

会場・彦根城博物館

東照大権現像を出品。

○特別展「織田信長と安土城」

会期・平成4年11月1日～11月23日

会場・滋賀県立安土城考古博物館

徳川家康筆判金請取状を出品。

○「初夢は一富士二鷹三茄子展」

会期・平成4年12月23日～平成5年1月16日

会場・名古屋城天守閣

徳川家光筆「茄子図」を出品。

○特別展「家康の遺産」

会期・平成5年2月20日～5月30日

会場・徳川博物館

重文洋時計・鉛筆・びいどろ壺・太刀無銘光世・脇指無銘行光・脇指無銘貞宗等35件を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成4年4月21日

会場・静岡県立美術館

平成4年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、松浦館長が会長に再任された。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成4年6月11日

会場・静岡市たちばな会館

平成4年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

4. 私立美術館会議総会

期日・平成4年6月17日

会場・徳川美術館

平成4年度総会が開催され、小林学芸主任が出席。

5. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成4年6月24日

会場・静岡県立中央図書館

平成4年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

6. 全国博物館大会

期日・平成4年11月5日～7日

会場・徳島県郷土文化会館

第40回大会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

庶務報告

1. 平成4年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	7,376	804	1,965	1,678	705	84	12,612
5月	9,477	1,369	2,412	2,882	1,146	46	17,332
6月	5,811	221	3,293	1,301	700	148	11,474
7月	5,361	426	881	1,186	584	18	8,456
8月	9,500	2,366	836	3,009	1,092	82	16,885
9月	6,740	300	1,987	1,708	639	45	11,419
10月	7,146	365	3,478	1,919	1,047	93	14,048
11月	8,819	625	2,827	2,157	1,114	42	15,584
12月	3,526	311	531	699	391	24	5,482
1月	7,536	803	413	1,583	436	21	10,792
2月	7,003	430	1,278	1,360	542	22	14,635
3月	8,954	1,321	880	1,984	819	73	14,031
計	87,249	9,341	20,781	21,466	9,215	698	148,750

2. その他

- 4月19日、5月24日、7月26日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、1月24日、2月14日及び3月28日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸主任が出席。
- 5月30日及び1月30日 静岡県史近世部会（於静岡県産業経済会館）に小林学芸主任が出席。
- 6月13日 「ドナルド・ジャット展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長が出席。
- 7月15日 S B S テレビが取材。
- 7月17日～18日 静岡県史の史料調査で小林学芸主任が米沢市立図書館、上杉博物館へ出向。
- 7月29日～30日及び8月4日～5日 静岡県史の史料調査で小林学芸主任が静岡市内へ出向。
- 8月1日 「石川欽一郎展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長が出席。
- 8月2日 国学院大学名誉教授鈴木敬三博士の葬儀に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 8月3日及び1月18日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議に小林学芸主任が出席。
- 8月20日 徳川美術館友の会一行が来館。
- 8月19日～23日 静鉄ロープウェイ主催の「久能山東照宮の歴史を学ぶ会」に協力。
- 8月29日 「伊豆国の遺宝展」（於MOA美術館）の開会式に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 9月11日 「永青文庫 日本画の精華展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長、小

林学芸主任が出席。

- 10月2日 徳川美術館新館開館5周年記念式典に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 10月9日 特別展「一遍」(於佐野美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 10月15日 テレビ静岡が特別展「徳川將軍の肖像画と近世の服飾」を取材。
- 10月23日 S B S 静岡放送が特別展「徳川將軍の肖像画と近世の服飾」を取材。
- 10月24日 福山城博物館の特別展で小林学芸主任が講演。
- 11月15日 登呂博物館開館20周年記念式典に小林学芸主任が出席。
- 1月22日 「英国風景画の黄金時代展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 1月23日 (株)グレートデンが重文金陀美具足・齒朶具足・打刀拵・火縄銃・鞍等を撮影。
- 1月26日 防火訓練実施。
- 2月22日 全文連絡会に松浦館長、小林学芸主任が出席。静岡浅間神社、臨濟寺を視察。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

但木則尚氏(郷土出版, 4月1日), 鵜田孝一氏(大塚巧藝社, 4月17日, 8月31日~9月2日・11日~12日及1月12日), 四ノ宮尹氏(元安東中学校教諭, 4月17日), 古賀優雄氏(4月17日), 浜岡伸也氏(石川県立歴史博物館学芸員, 4月22日及5月27日), 加藤博司氏(エポス, 4月24日), 小山久明氏・土佐信二氏(エポス, 5月11日), 山本真也氏(東武船橋店, 5月11日), 徳川慶朝氏(5月14日), 岡村啓嗣氏(カメラマン, 5月14日), 佐藤豊三氏(徳川美術館学芸課長, 5月18日, 9月20日~22日及11月21日~22日), 佐々木久氏(静岡百選出版, 5月19日), 岡本伊佐夫氏(穴水町歴史民俗資料館, 6月1日及8月10日), 小沢正実氏(鎧司, 6月10日), 吉岡庸治氏(MOA美術館長, 6月11日), 柏木徳三郎氏・岡村健氏(SBSプロモーション, 6月22日), 東四柳史明氏(石川県立図書館次長, 6月26日及8月9日), 木越祐馨氏(石川県立図書館, 6月26日), 福士繁雄氏(小道具研究家, 6月27日), 沼津市歴史民俗資料館役員一行(7月2日), 小池富雄氏(徳川美術館普及課長, 7月6日及8月20日), 奥出賢治氏(名古屋城学芸員, 8月27日, 10月3日~4日, 11月18日, 12月14日及1月20日), 山本泰一氏(徳川美術館長代理, 8月31日~9月1日), 森田彰氏(郷土出版社代表, 9月3日), 松下浩氏(安土城考古博物館学芸員, 9月11日及12月1日), 清水尚氏(安土城考古博物館学芸員, 9月11日, 10月27日及12月1日), 谷口徹氏(彦根城博物館学芸員, 9月16日), 平塚泰三氏(徳川美術館学芸員, 9月20日~22日, 10月28日及11月21日~22日), 鐘尾光世氏(福山城博物館副館長, 9月25日及11月16日), 伴五十嗣郎氏(皇学館大学教授, 9月26日), 渡辺和昭氏・渡辺博氏(河口湖美術館, 10月3日), 斎藤洋一氏(戸定歴史館学芸員, 10月5日及12月10日), 母利美和氏・山岸岳氏(彦根城博物館学芸員, 10月9日及12月3日), 斎藤茂氏(ヤマト美樹, 10月14日及11月24日), 松平乗昌氏(霞会館, 10月27日及1月6日), 鈴木東洋氏・水野茂氏(静岡古城研究会, 10月29日及12月6日), 栗原澄子氏(国学院栃木短大教授, 11月2日), 徳川真木氏(徳川博物館学芸員, 11月19日及3月17日~18日), 徳川義宣氏(徳川美術館長, 11月22日), 越智裕二郎氏(静岡県立美術館主任学芸員, 12月22日及2月5日), 加藤優氏(文化庁美術工芸課, 12月25日), 井口信久氏(川越市立博物館学芸員, 12月31日), 早川一登氏・曾根市郎氏(グレートデン, 1月13日及23日), 藤波貞雄氏(NHK大阪, 2月7日), 静岡南部公民館一行(2月25日)。

平成 5 年度

館 内 業 務

1. 特 別 展

○「久能山東照宮の名宝展」

会期＝平成 5 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日

館蔵の重文金陀美具足・絲卷太刀拵、東照大権現像、徳川慶喜油絵等70余点を展示。

○「徳川將軍家の遺宝展」

会期＝平成 5 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日

館蔵の国宝太刀真恒（付絲卷太刀拵）、重文大黒頭巾形兜等70余点を展示。

○「久能山東照宮の什宝展」

会期＝平成 5 年 10 月 1 日～平成 6 年 1 月 31 日

館蔵の重文金陀美具足・洋時計・太刀雲次等70余点を展示。

○特別展「徳川將軍家の名宝」

会期＝平成 6 年 2 月 1 日～ 5 月 31 日

館蔵の国宝絲卷太刀拵、重文びいどろ壺、着籠等約70点を展示。

2. 刀剣の再調査

平成 5 年 5 月 5 日、文化庁文化財鑑査官広井雄一氏に依頼し、当館所蔵の刀剣の再調査を行った。

3. 資料の購入

○平成 5 年 6 月 3 日、京都思文閣より水戸藩主徳川齊昭室吉子（文明夫人）筆の和歌短冊「代々へても云々」（明治十年詠）1 枚を購入した。

○平成 5 年 7 月 2 日、京都思文閣より伊予西条藩松平家閨室（水月尼・智月院等）詠草類約100点を一括購入した。

4. 甲冑の修復

平成 5 年 6 月 30 日～12 月 7 日、鎧司小沢正実氏に依頼し、縹絲威具足（三代將軍家光所用）を修復した。

5. 資料の撮影

平成 5 年 11 月 25 日～27 日及び 12 月 16 日～18 日、（株）大塚巧藝社写真部に依頼し、館蔵刀剣調査報告書作成に係る刀装の新規撮影を行った。

6. 刀剣類定期手入れ

平成 6 年 3 月 19 日、（財）佐野美術館副館長渡辺妙子氏の手により館蔵刀剣類の定期点検手入れが行われた。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○特別展「家康の遺産」

会期・平成 5 年 2 月 20 日～ 5 月 30 日

会場・徳川博物館

重文洋時計・鉛筆・びいどろ壺・太刀無銘光世・脇指無銘行光・脇指無銘貞宗等35件を出品。

○「ポルトガルと南蛮文化展」

会期・平成5年6月1日～7月4日

会場・静岡県立美術館

重文火縄銃（付属品とも）を出品。

○特別展「家康の遺産」

会期・平成5年9月4日～10月11日

会場・東京都江戸東京博物館

重文洋時計・鉛筆・伽羅・太刀無銘光世等22件を出品。

○海外展「日本とヨーロッパ 1543年—1929年」

会期・平成5年9月12日～12月12日

会場・独国マルティン・グロピウス館

重文火縄銃1挺を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成5年5月12日

会場・静岡県立美術館

平成5年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸部長が出席。

3. 私立美術館会議総会

期日・平成5年5月21日

会場・徳川美術館

平成5年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

4. 大名道具収蔵館集会

期日・平成5年5月25日～26日

会場・彦根城博物館・彦根プラザ

第2回集会が開催され、小林学芸部長が出席。

5. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成5年6月18日

会場・静岡県立中央図書館

平成5年度総会が開催され、松浦館長が出席。

6. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成5年7月6日～7日

会場・名古屋市ルブラ王山

平成5年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸部長が出席。

7. 全国博物館大会

期日・平成5年10月20日～23日

会場・札幌市教育文化会館

第41回大会が開催され、松浦館長、小林学芸部長が出席。

庶務報告

1. 平成5年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	6,556	610	1,457	1,752	728	208	11,311
5月	7,674	1,121	1,859	2,523	1,102	106	14,385
6月	4,081	195	2,024	1,112	661	25	8,098
7月	3,603	265	647	1,112	495	4	6,126
8月	6,894	1,716	665	2,964	913	94	13,246
9月	4,531	119	1,015	1,096	592	26	7,379
10月	5,285	366	2,720	1,586	917	52	10,926
11月	5,139	302	2,099	1,788	824	64	10,216
12月	2,609	190	289	803	311	27	4,229
1月	5,439	620	287	1,709	453	14	8,522
2月	4,815	291	612	1,302	557	25	7,602
3月	7,104	840	197	2,400	855	74	11,470
計	63,730	6,635	13,871	20,147	8,408	719	113,510

2. その他

- 4月1日付で学芸主任小林明を学芸部長とする。
- 4月1日 NHK大阪が和宮戯画を撮影。
- 4月19日～20日 特別展「家康の遺産」（於徳川博物館）を松浦館長、小林学芸部長が視察。
- 4月22日 （財）徳川黎明会会長徳川義知氏の葬儀に松浦館長が参列。
- 5月22日 岩下光男氏（元東海大学海洋科学博物館長）の叙勲を祝う会に館長代理で小林学芸部長が出席。
- 5月23日、7月18日、8月8日、9月19日、10月11日、11月28日、12月26日、1月23日、及び2月27日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 5月24日 大阪市立美術館学芸員土井久美子氏が当館の重文雁蒔絵冠桶を調査。
- 6月1日 「ポルトガルと南蛮文化展」（於静岡県立美術館）の開会式に小林学芸部長が出席。
- 6月5日、1月29日及び3月6日 静岡県史近世部会（於静岡県産業経済会館）に小林学芸部長が出席。
- 6月12日 静岡県博物館協会主催の文化講演会（演題「倭寇と鉄砲伝来」 講師国立歴史民俗博物館教授宇田川武久氏）に小林学芸部長が出席。
- 6月21日 静岡県史編さん調査協力員連絡会で小林学芸部長が講演（演題「古記録と遺品」）。

- 7月16日 「フランス絵画—黄金の19世紀—展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 7月19日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長がMOA美術館へ出向。
- 7月21日 テレビ静岡が重文薬秤を取材・撮影。
- 8月11日及び10月5日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議に小林学芸部長が出席。
- 8月20日～22日 静鉄ロープウェイ主催の「久能山東照宮の歴史を学ぶ会」に協力。
- 9月3日 特別展「家康の遺産」(於江戸東京博物館)の開会式に松浦館長、小林学芸部長が出席。
- 9月7日 徳川美術館を小林学芸部長が視察。
- 9月27日及び12月15日 館蔵刀剣調査報告書作成の件で小林学芸部長が東京国立文化財研究所へ出向。
- 10月8日 静岡県博物館構想調査に係る県内博物館関係者懇談会(県企画調整部主催)に小林学芸部長が出席。
- 10月14日 日本美術刀剣保存協会山梨県支部(神田秀夫支部長)会員17名が館蔵刀剣を特別拝観。
- 11月27日 静岡市観光課が家康像を撮影。
- 11月29日 静岡県広報課の依頼による静岡第一テレビが重文洋時計・伽羅・大黒頭巾形兜等を取材、撮影。
- 1月8日 テレビ東京が当館を取材、撮影。
- 3月9日 NHKが吉宗遺品の兜を撮影。
- 3月12日 登呂博物館1階展示室改造オープニングに松浦館長が出席。
- 3月12日～13日 静岡県史の史料調査で小林学芸部長が静岡市内へ出向。
- 3月23日 ログン館の開館式に松浦館長が出席。
- 3月28日 国学院栃木短大教授栗原澄子氏が家茂遺品の陣羽織(新資料)を調査。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

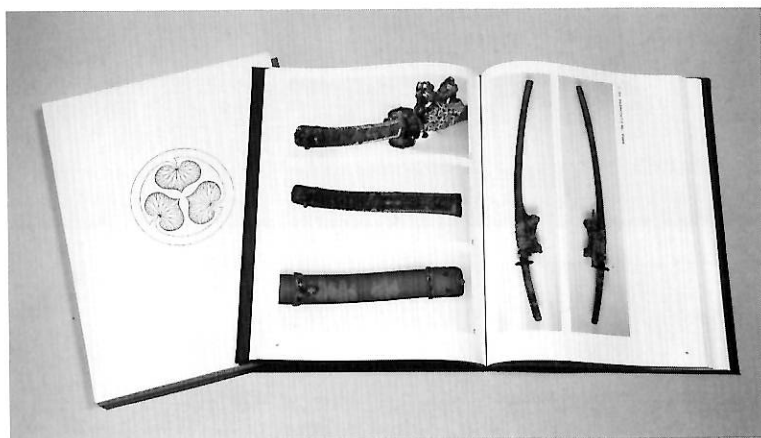
古賀優雄氏(4月17日)、鵜田孝一氏(大塚巧藝社、4月17日、11月25日～27日、12月16日～18日及3月14日)、井口信久氏(川越市立博物館学芸員、5月1日及12月31日)、越智裕二郎氏(静岡県立美術館主任学芸員、5月11日)、鈴木基之氏(静岡県文化課、5月17日)、山下睦美氏(静岡県立美術館学芸員、5月20日、6月11日及7月8日)、西源二郎氏・柴田勝重氏(東海大学海洋科学博物館、5月27日)、小沢正実氏(鎧司、5月27日)、徳川真木氏(徳川博物館学芸員、6月4日、8月24日～25日及10月16日)、木村幸比古氏(霊山歴史館主任学芸員、6月18日)、徳川斉正氏(水府明徳会長、6月19日)、片山満雄氏(東京美術、6月25日)、望月美賀子氏(テレビ静岡、7月11日及21日)、加藤優氏(文化庁美術工芸課、7月23日)、大木旭氏(刀剣研究家、8月13日及10月16日)、近松鴻二氏(江戸東京博物館、8月24日～25日)、原史彦氏(江戸東京博物館、8月24日～25日及10月16日)、阿部尚武氏(江戸東京博物館、10月16日)、北見登氏(大塚巧藝社、11月25日～27日及12月16日～18日)、広井雄一氏(東京国立文化財研究所情報資料部長、11月25日・27日及3月19日)、栗原晨氏(静岡第一テレビアナウンサー、11月29日)、山田忠雄氏(名古屋城、12月3日)、奥出賢治氏(名古屋城学芸員、12月3日、1月26日及3月11日)、立花みどり氏(帝京大学講師、12月12日)、相原恭子氏(佐野美術館学芸員、12月12日)鈴木東洋氏・水野茂氏(静岡古城研究会、12月25日)、成田修一氏(テレビ東京ディレクター、1月8日)、長束泰裕氏(SBSプロモーション、1月8

日), 大塚英明氏 (文化庁美術工芸課, 1月10日), 井出孝氏 (静岡県文化財保存協会副会長, 1月30日), 織田元泰氏 (元静岡県史編さん室長, 2月6日), 五嶋耕太郎氏 (石川県輪島市長, 2月19日), 松原政義氏 (輪島漆芸美術館長, 2月19日), 島口慶一氏 (同上企画係長, 2月19日), 牧野望氏 (NHK番組制作局, 2月25日及3月9日), 森内優子氏 (埼玉県立博物館, 3月18日), 加来洋祐氏・井口泰伸氏 (NHK事業部, 3月24日), 星野和夫氏 (国立公文書館, 3月29日), 高橋克伸氏 (和歌山市立博物館学芸員, 3月31日)。

新刊のご案内

『久能山東照宮傳世の文化財 刀剣編』

- B4判変型 345mm×260mm
- 総頁180頁 (白黒図版74頁・カラー図版56頁・解説31頁等)
- 装呈 布裂地角背上製・ボールケース付
- 監修 廣井雄一 東京国立文化財研究所情報資料部長
- 協力 渡邊妙子 財団法人佐野美術館副館長
- 価格18,000円 (税込)
- 送料 1,000円



昭和56年秋に「久能山東照宮傳世の文化財」を発刊して以来13年の歳月が流れました。その間國學院大學名誉教授鈴木敬三博士を中心とし調査・研究を進め、文化財資料解説編の発行を予定しておりましたが、博士の突然の死により発刊計画が大巾に遅れております。

刀剣編に関しては博士より御推奨いただいておりました当時文化庁美術工芸課 (現在東京国立文化財研究所情報資料部長) に在籍されていた廣井雄一氏にお願いすることになりました。

その後刀剣の調査研究が一段落し、ここに刀剣調査報告書として『久能山東照宮傳世の文化財 刀剣編』が発刊になりました。

少部数ではございますが、ご希望の方にご高覧いただきたくここにご案内申し上げます。

また平成9年度には「甲冑編」を発刊予定です。あわせてご案内申し上げます。

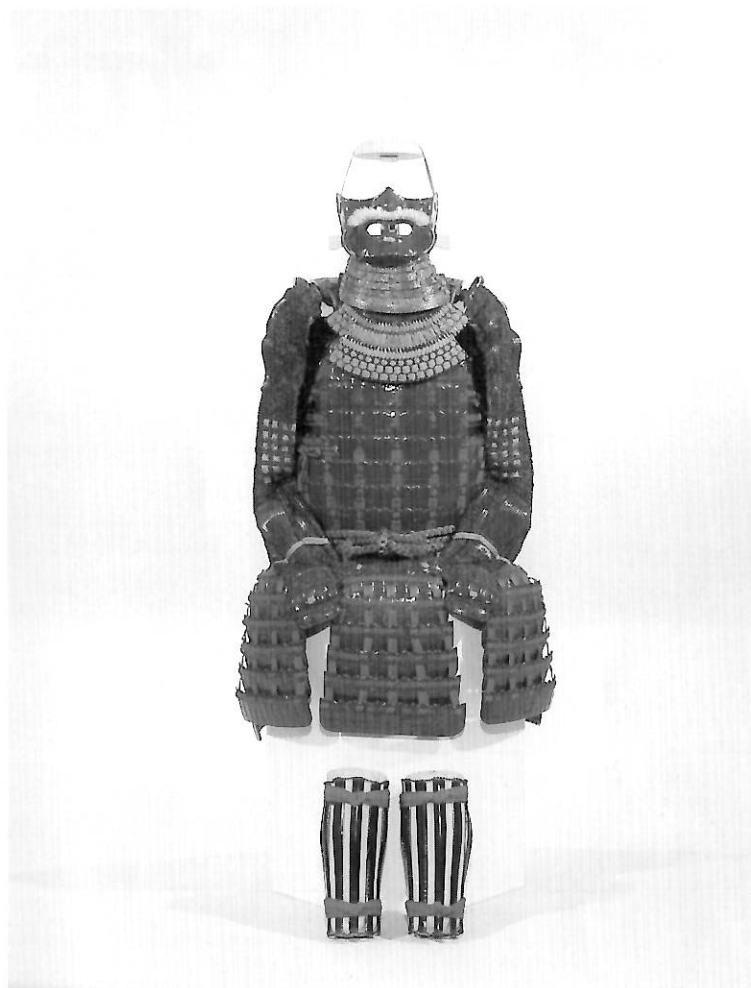


博物館の名品 19

重文 金陀美具足（きんだみぐそく） 徳川家康所用

永祿三年五月、今川義元の属城である尾張の大高城が織田信長のために糧道を絶たれ困窮していたとき、義元の属将であった十九歳の松平元康（のちの徳川家康）は重囲を昌して兵糧を搬入することに成功した。この具足はこのとき、元康が着用していたものと伝えられるが、確証はなく、作期はやや下るものとみられる。『信長公記』はこのときの元康を朱武者と記す。兜は三枚張頭形で立物の装置はなく、頬当は頬形の半頬とする。胴は鉄板打延二枚胴で、前立拵二段、後立拵一段を基石頭の板札で揺ぎとし、黒糸で毛引に威す。六間四段下りの草摺の威しも同断。籠手は置袖を加えた毘沙門籠手。臙当は古風な大立拵で鉸具摺はない。佩盾は骨牌札の板佩盾である。総体を金粉でだみ、一部を金箔置とした華麗な甲冑である。

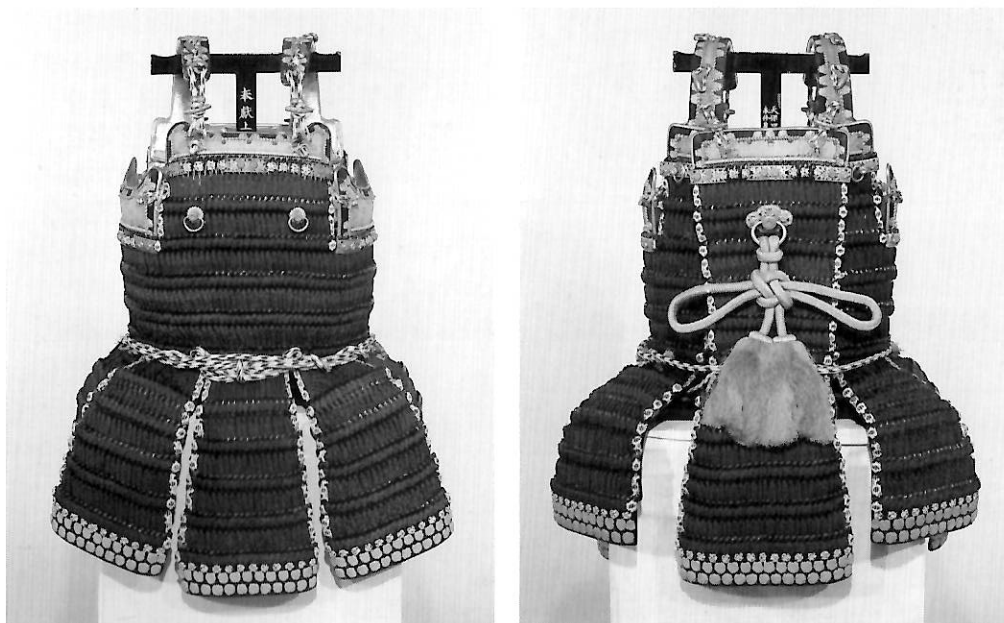
兜鉢高18.5 胴高39.0cm 重量11,700g



博物館の名品 20

茶絲威具足（ちゃいとどしぐそく） 徳川秀忠所用

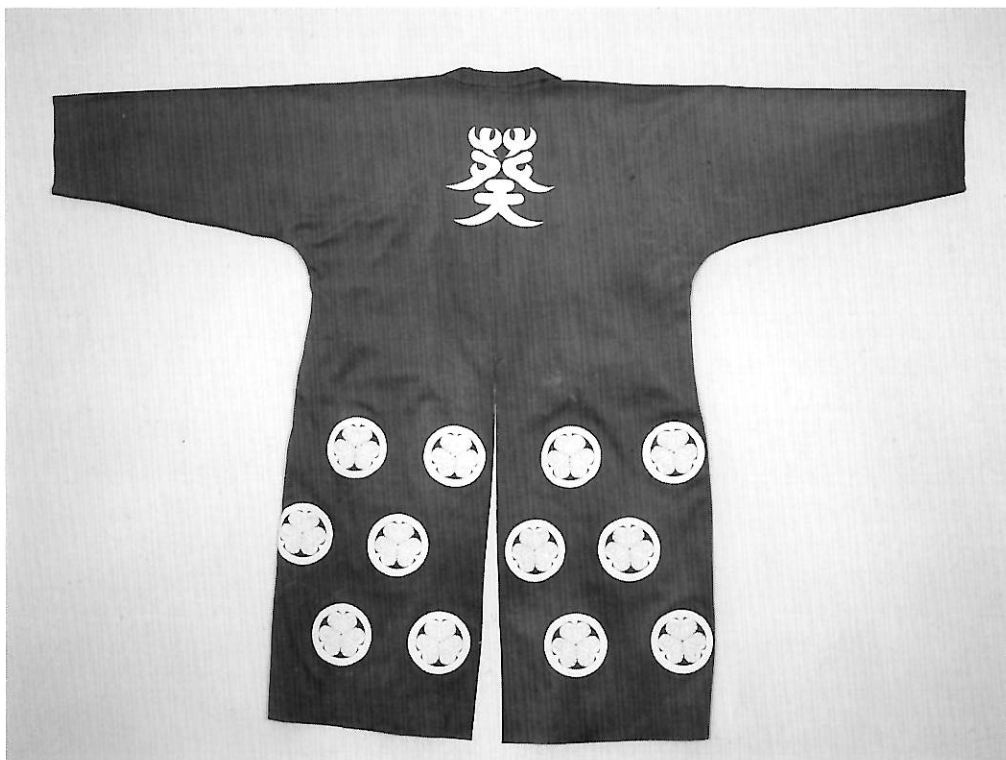
『御代々御召御具足并御小道具帳』（寛延三年十二月調成）所載の二代將軍秀忠召料の茶絲威具足で、頭形の兜、壺袖、脇引、踏込を欠いている。胴は栗色塗伊予札矢筈頭縫延胴を茶絲で素懸に威し、七間六段下りの草摺は茶絲の毛引威とする。頬当は垂五段下りをしほ革で包み、茶絲で素懸に威す。喉輪も栗色で毛引の茶絲威とする。籠手は小田形の袋籠手で家地を黄唐茶緞子とする。臍当は栗色塗の九本篠で鉸具摺を馬革とする。平成三年、鎧司小沢正実氏の手により修復。秀忠の甲冑としては現存する唯一のものである。胴廻115.0cm



博物館の名品 21

紺絲威腹巻（こんいとどしはらまき） 伝徳川家茂所用

近世の腹巻は、中世では胴丸（どうまる）と呼ばれた鎧で、背面中央引合を特色とする。この腹巻は十四代將軍家茂御召の料と伝えられ、大袖を欠くのは惜まれるが保存状態は良好である。立挙前後二段・かぶきどう衡胴四段及び七間五段下りの草摺を紺絲で威し、草摺の菱板は哇目啄木・みみいと耳絲龜甲・ひしぬい菱縫紅二行とする。胸板・脇板・押付板の革所は地革を天平革とし、ひした小縁の杉立菖蒲草とを蛇腹伏縫にして小桜鉤を打ち、こざくらがょう金銅唐草毛彫の覆輪をめぐらす。こんどうからくさ弦綿嚙の革所も同様。ふくりん金具廻りの裏は革包金箔置とする。八双金物は枝菊透座に奈良菊の双鉤を配す。花緞は啄木。肩上手先の高紐、背板付紐、くりじめ縹綿緒は紫・紺・白・萌葱の源氏打。前立挙二段目に采配付の金銅鐙が二箇、毛彫奈良菊頭菊座に付く。背板も黒漆盛上げの革札を紺絲で毛引威にし、革所、金具廻りも胴の仕立と同様であるが、八双金物の下には木瓜形枝菊透彫の台座を打ち、紅角八打の総角を付けている。前胴高32.4 胴廻80.4cm 重量6350g



博物館の名品 22

筒袖陣羽織（つつそでじんばおり） 徳川家茂所用

戦国時代より武将の間で、当世具足を着用した上に、あるいは小具足姿に、袖付や袖無の胴服をはおる習慣が生じ、やがて着心地の軽やかさと武装を彩る華やかさが好まれて持映され、盛行をみるに至った。この上衣を具足羽織と称したが、一般には陣羽織の呼称で流布されるようになった。江戸時代に入り、大坂冬・夏の陣を経て泰平の世へと移行しても陣羽織は武家装束に欠かせないものとなっており、軍陣以外の調練や野駈にもよく用いられている。この陣羽織は、紫羅紗地で筒袖を付け、背のまわし襟の真下には白羅紗で葵の字を切りはめ、中央の背縫の腰から下を綻ばせた、いわゆる“背割”で分かれた左右の身頃の裾に各々六箇、前身の裾にも左右各々三箇の三葉葵丸紋を配し、白羅紗の切りはめ仕立てで散らしている。まわし襟は紫羅紗の同地で、白羅紗の裏と笹縁は失われている。前身の左右の返し襟は角襟で、白羅紗地に緋羅紗の三葉葵丸紋を五箇づつ縦列に切りはめているが、その直径は下部のものほど大きくなっている。笹縁は香革で羊のなめし皮と思われる。なお、この陣羽織は筒袖であるため、多くは小具足姿に用いられたものであろう。十四代将軍徳川家茂の召料で、慶応二年に遺物として御側向に勤仕した諏訪安房守が拝領したものである。

身丈98.5 裾73.2cm 重量1100g

休館のご案内

久能山東照宮博物館は下記の間増改築工事の為休館いたします
平成6年7月1日～平成7年6月30日

久能山東照宮博物館報
—— 第 13 号 ——
平成6年7月10日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422 静岡市根古屋390
TEL.054(237)2437